

自立活動研修会 (外部専門家活用事業) H29. 7. 31

作業療法士 濱中真実先生 「発達障害児への理解と支援」

職員の事前アンケートにおいて、『問題行動への対処方法について教えていただきたい』との声が多く挙がっていました。そこで、子どもの行動には理由があり、どうしてそのような行動をとるのか、『感覚統合理論』の視点から話をさせていただきました。

～どうしてそのような行動をとるのでしょうか??～

- 多動・・・課題の難易度が合っていない？(おもちゃで遊んでいても次々と他のおもちゃを触りたがるなど)
- 不器用・・・両手動作の未熟さがある？(紙を押さえながら鉛筆で書くなど)
- 友達と上手く遊べない・・・ルールの理解ができない？(1番じゃないと納得しない)
- 集団行動ができない・・・先生の話を受けているが、理解できない？(言葉の理解やワーキングメモリー、注意して聞き取ることができないなど)

～どのような援助が必要でしょうか??～

- 多動・・・しっかり動かす(センソリーダイエット)。環境の調整。その子に合った課題提供など。
- 不器用・・・しっかりと力が入るような活動の提供。両手両足を使った遊びの提供。
- 友達と上手く遊べない・・・大人との関係から育てる。勝つこともあれば負けることもあるという体験が必要。
- 集団行動ができない・・・端的な言葉で指示をする。視覚的情報を取り入れる。

☆ポイント「その子なりのルールがあることを理解する」

- ・子どもたちに寄っていく。
- ・どういうルールなのか？社会に適用できるか？難しいなら適切なルールを示すように！！

☆ポイント「いろいろなパターンを取り入れていく」

- ・パターン化し過ぎると、こだわりを強めてしまう。
- ・お互い余裕があるときに組み合わせる。

☆ポイント「たくさん関わる・ほめる」

- ・日常の何気ない行動をほめる。頻繁にほめる。

～子どもの脳をうまく育てる原則～

1. 五感を十分に使うこと <動きを入れた認知課題>
2. 子どもの興味、意欲を生かすこと
3. 達成感、満足感が得られること <できた！もっとやりたい！成功体験を>
4. 楽しいこと <子どもの笑顔や輝く目を大切に>
5. 目的的活動であること <子どもにとって意味ある学習になるように>
6. 能動性、主体性を大切に <自分からやろうという気持ちにさせること>



↑触覚グッズ

～研修会を受けて～

- ・とても基本的なことを分かりやすく話してくださったので、もう一度発達障害について考え、理解することができました。
- ・同じことが繰り返されるとこだわりが強まるという話を聞き、教室の環境、言葉掛け、手立てを振り返って、今後の指導を改めて考えていきたいと思いました。
- ・しっかりと子どもをほめることを忘れずに指導していきたいと思いました。

